

2024年4月24日

— 明治安田 「家計」に関するアンケート調査を実施 —
 9割以上が「昨年以上に物価高の影響を実感」と回答
 物価高がGW予算にも影響！昨年比約1万円ダウン
 夫のおこづかい、貯蓄額も3年ぶりのダウンに！

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 永島 英器）は、「家計」に関するアンケート調査を実施しましたのでご報告します。

1. 物価高の影響（詳細は5～7ページ参照）

■ 9割以上が物価高の影響を実感！なかでも食料品は7割以上が影響を感じると回答！

- ・物価高の影響を昨年以上に感じると回答した人は実に9割以上（94.1%）！
- ・物価高の影響を感じると回答した人に、最も影響のある費用を聞くと、トップは「食費」（73.0%）で、昨年を22.5ptも上回り、食料品の値上げで家計に深刻なダメージが！
- ・さらに、昨年と比べて世帯支出が「増えた」と回答した人は約4割（37.5%）
- ・支出が増えた理由は「物価高騰により生活費が増えているため」が8割を超え（83.2%）、物価高が日々の生活の大きな負担となっていることが鮮明に

明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一が「物価高の影響」について分析！

2. 今年のGW（詳細は8～11ページ参照）

（1）GWの予算

■ GW予算は昨年から約1万円ダウン！理由は「物価高で予算を減らした」が最多！

- ・今年のGW予算は、29,677円と、昨年（39,294円）から約1万円ダウン
- ・GW予算を減らした理由のトップは「物価高の影響で予算を減らした」（65.8%）で、物価高が生活を直撃し、GW予算を節約せざるをえない？

（2）GWの過ごし方

■ GWは「自宅で過ごす」人が約半数！過ごし方にも物価高の影響が？

- ・今年のGWの過ごし方のトップは、「自宅で過ごす」が約半数（46.8%）で、昨年より5.2ptも上昇。また、「国内旅行」（12.1%）は昨年より▲1.6pt、「海外旅行」も昨年より▲0.5ptとなり、GWの過ごし方にも物価高の影響、さらには円安の影響も？
- ・昨年と比べて「収入が増えた」と回答した人のGWの過ごし方を見てみると、「国内旅行」（20.1%）は全体と比べて+8pt！「自宅で過ごす」（29.4%）は▲17.4ptと、賃上げの有無がGWの過ごし方を左右している？

明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一が「GW」について分析！

【ご照会先】
 広報部 広報グループ TEL 03-3283-8054

明治安田生命保険相互会社 〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1



3. 貯蓄とおこづかい（詳細は12～14ページ参照）

（1）貯蓄について

■貯蓄額は3年ぶりの減少。昨年から175万円減！

- ・世帯の貯蓄額も2年連続上昇していたが、今年は平均1,303万円で、昨年（1,478万円）から175万円のダウン！収入が物価高に追いつかず、貯蓄を取り崩した結果か？
- ・貯蓄目的のトップは「老後のため」（63.5%）、次いで「いざという時のため」（54.4%）と、先行きが不透明なことに不安を感じている結果に
- ・貯蓄方法は、「銀行預金」が昨年に引続き最も多く（71.6%）（昨年：74.3%）、「投資」は21.6%（昨年：19.2%）に留まるなど、投資がわずかに上昇しているものの、“貯蓄から投資へ”の定着にはまだまだ時間がかかる？

（2）おこづかいについて

■夫のおこづかいも3年ぶりの減少！昨年から2,513円減！

- ・夫のおこづかいは33,039円と、昨年（35,552円）から2,513円減少（▲7.1%）
- ・2年連続上昇していたが、今年は減少に。収入は賃上げで上昇傾向にもかかわらず、生活費が増えたことや貯蓄が減ったことで、お父さんのおこづかいに回せる金額は減少か？

明治安田総合研究所 エコノミスト 木村 彩月が「おこづかいと貯蓄」について分析！

4. 世帯の収入（詳細は15～16ページ参照）

■世帯収入が増えたと回答した人は、2年連続上昇！

- ・昨年と比べて「世帯収入が増えた」と回答した人は、23.1%で2年連続の上昇。昨年（17.8%）より+5.3pt！（※調査実施は2024年3月）
- ・さらに、世帯収入が増えた理由は「賃上げ等により給料があがったため」が約6割（56.2%）で、昨年より+13.9pt上昇！
- ・今年の賃上げで、“収入が増えた”と実感する人はさらに増えていく？

明治安田総合研究所 エコノミスト 木村 彩月が「世帯の収入」について分析！

5. キャッシュレス決済（詳細は17ページ参照）

■現金派は3割以下！キャッシュレスが進むも、「スマホ決済」は苦手な世代も？

- ・最も多く利用する決済手段は「クレジットカード」（40.3%）、次いで「現金」（28.6%）、「スマホ決済」（26.5%）
- ・ポイントが付くお得感や利便性といった魅力や、物価高が利用を後押しか？
- ・世代別に見てみると、「スマホ決済」は若い世代（20～40代）ほど人気がある一方で、60～70代は「クレジットカード」「ICカード（交通系など）」の“カード”を利用する傾向に。“スマホ”へのハードルはまだまだ高い？

対象者の属性

1. 調査対象

20～79歳の既婚男女

2. 調査エリア

全国

3. 調査期間

2024年3月19日(火)～3月25日(月)

4. 調査方法

インターネット調査

5. 有効回答者数

1,620人

6. 回答者の内訳

(単位：人)

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男性	135	135	135	135	135	135	810
女性	135	135	135	135	135	135	810
計	270	270	270	270	270	270	1,620

【 目 次 】

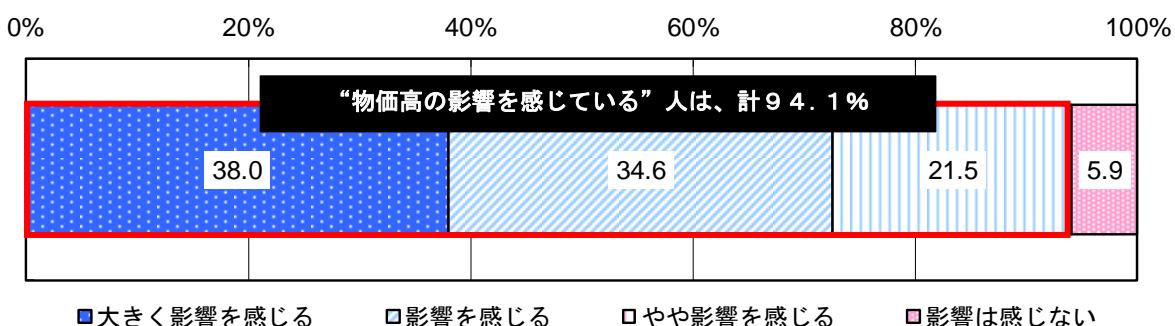
<u>1. 物価高の影響</u>	…	5～7ページ
<u>2. 今年のGW</u>	…	8～11ページ
(1) GWの予算	…	8～9ページ
(2) GWの過ごし方	…	10～11ページ
<u>3. 貯蓄とおこづかい</u>	…	12～14ページ
(1) 貯蓄について	…	12～13ページ
(2) おこづかいについて	…	14ページ
<u>4. 世帯の収入</u>	…	15～16ページ
<u>5. キャッシュレス決済</u>	…	17ページ

1. 物価高の影響

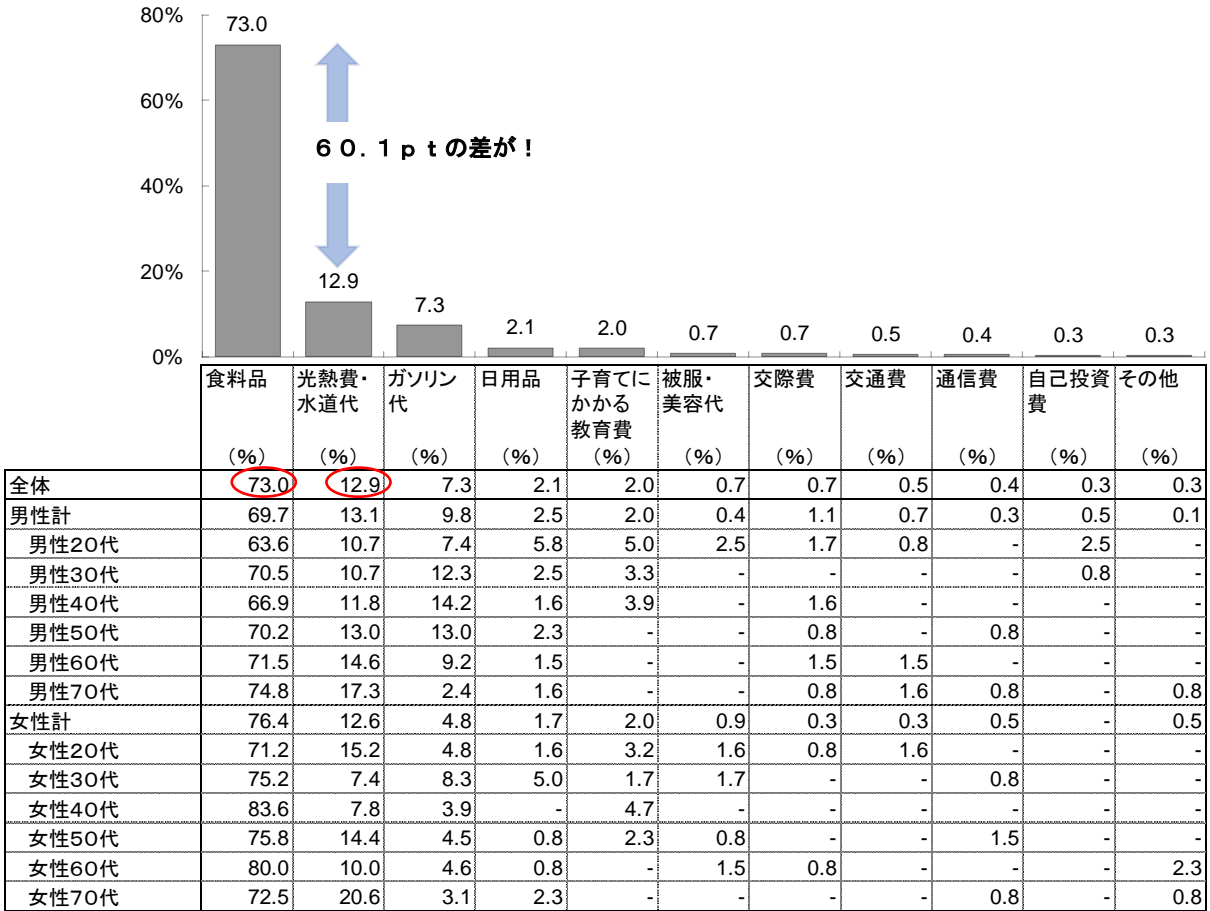
9割以上が物価高の影響を実感！なかでも食料品は7割以上が影響を感じると回答！

- 物価高による家計への影響について、昨年以上に感じるか聞いたところ、「大きく影響を感じる」と回答した人が38.0%、「影響を感じる」と回答した人が34.6%、「やや影響を感じる」と回答した人が21.5%と、合わせて9割以上（94.1%）が物価高の影響を感じています。
- 昨年よりも物価高の影響を感じる費用を聞いたところ、トップは「食料品」（73.0%）で7割を超え、2位の「光熱費・水道代」（12.9%）と60.1p tの大きな差がありました。
- また、昨年の調査と比べると「食料品」は50.5%から22.5p t上がっています。一方、「光熱費・水道代」は41.4%から28.5p t下がっており、政府の電気・ガス支援策が影響しているのかもしれません。
- 昨年同時期と比較した支出の増減を聞いたところ、約4割（37.5%）の世帯が「増えた」と回答しました。2021年は18.9%、2022年は20.5%、2023年は今年と同じ37.5%で、世帯の支出が「増えた」と回答する人の割合は増加の傾向にあります。
- 支出が「増えた」理由を聞くと、「物価高騰により生活費が増えているため」（83.2%）が8割を超え、日々の生活に物価高が重くのしかかっていることが分かる結果となりました。
- 食料品値上げなど、物価高のニュースが続いていますが、家計には深刻なダメージとなっているようです。

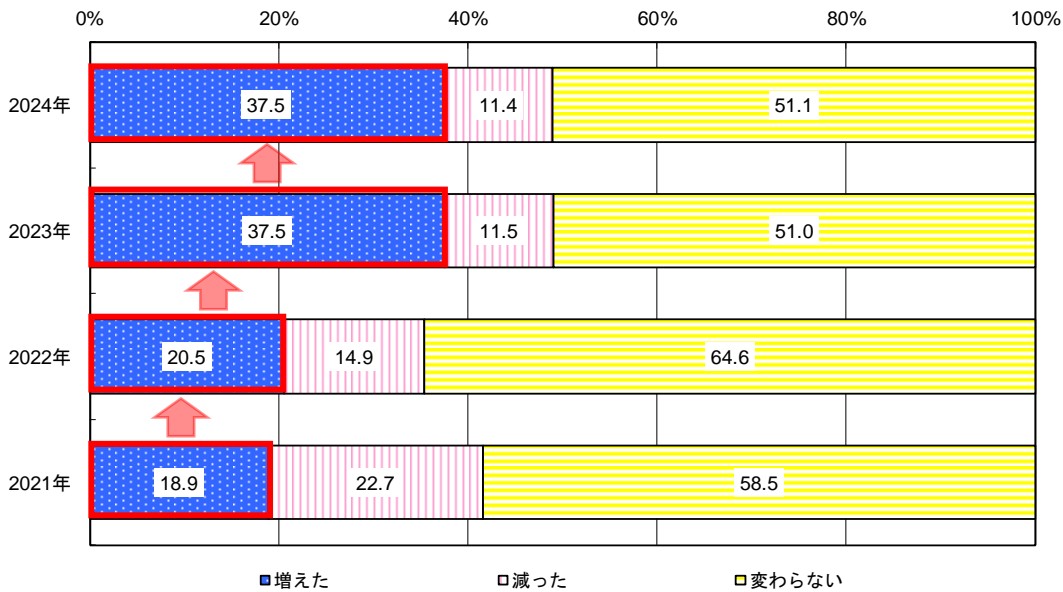
Q. 昨年以上に物価高の影響を感じていますか



Q. 昨年以上に物価高の影響を最も感じる費用は何ですか
 (「昨年以上に物価高の影響を感じる」人のみ回答)

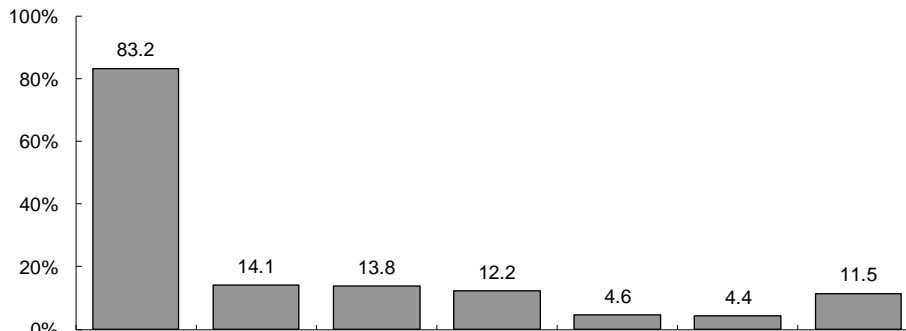


Q. 昨年同時期と比較して、支出に増減はありますか



Q. 世帯の支出が増えた理由は何ですか（複数回答）

（昨年以上に支出が増えた人のみ回答）



	物価高騰により生活費が増えているため (%)	家族の人数が増えたため (%)	外出や旅行などの機会が増えたため (%)	会食や外食の機会が増えたため (%)	収入が増えたため (%)	投資に回しているため (%)	その他 (%)
全体	83.2	14.1	13.8	12.2	4.6	4.4	11.5
男性計	81.3	11.3	13.8	14.7	6.9	5.3	10.9
男性20代	58.7	28.6	12.7	15.9	22.2	9.5	4.8
男性30代	72.4	24.1	19.0	27.6	8.6	5.2	6.9
男性40代	84.5	1.7	5.2	15.5	3.4	-	17.2
男性50代	90.9	-	12.7	12.7	1.8	9.1	14.5
男性60代	93.3	6.7	22.2	6.7	-	2.2	15.6
男性70代	97.6	-	12.2	4.9	-	4.9	7.3
女性計	85.4	17.4	13.9	9.4	2.1	3.5	12.2
女性20代	71.4	50.0	12.5	12.5	5.4	3.6	5.4
女性30代	78.3	25.0	20.0	8.3	3.3	3.3	10.0
女性40代	94.2	9.6	15.4	11.5	1.9	5.8	15.4
女性50代	90.7	-	14.0	14.0	-	2.3	18.6
女性60代	92.3	2.6	12.8	5.1	-	2.6	12.8
女性70代	92.1	2.6	5.3	2.6	-	2.6	13.2

～フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一はこう見る！～

■ 明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一



9割以上の方が、昨年よりも物価高の影響を感じるという結果になりました。総務省によると、2023年度の消費者物価指数の上昇率は3.0%でしたが、食料に限れば7.4%で、2022年度の5.7%から伸び幅が拡大しています。支出に占める割合が高い分、家計が痛手を感じやすい環境につながった形です。2023年は賃金上昇率が拡大しましたが、物価上昇率が終始上回っていたことも家計を圧迫しました。

ただ、ここへきて食品価格にはピークアウトの兆しが見られます。帝国データバンクが食品メーカー195社を対象にした調査によれば、今年の1月から7月までの値上げ品目数（計画含む）は前年同時期と比べて7割減となっています。一方、2024年の春闘では、2023年を大きく上回る賃上げが確実な情勢で、家計心理の好転を期待したいところです。

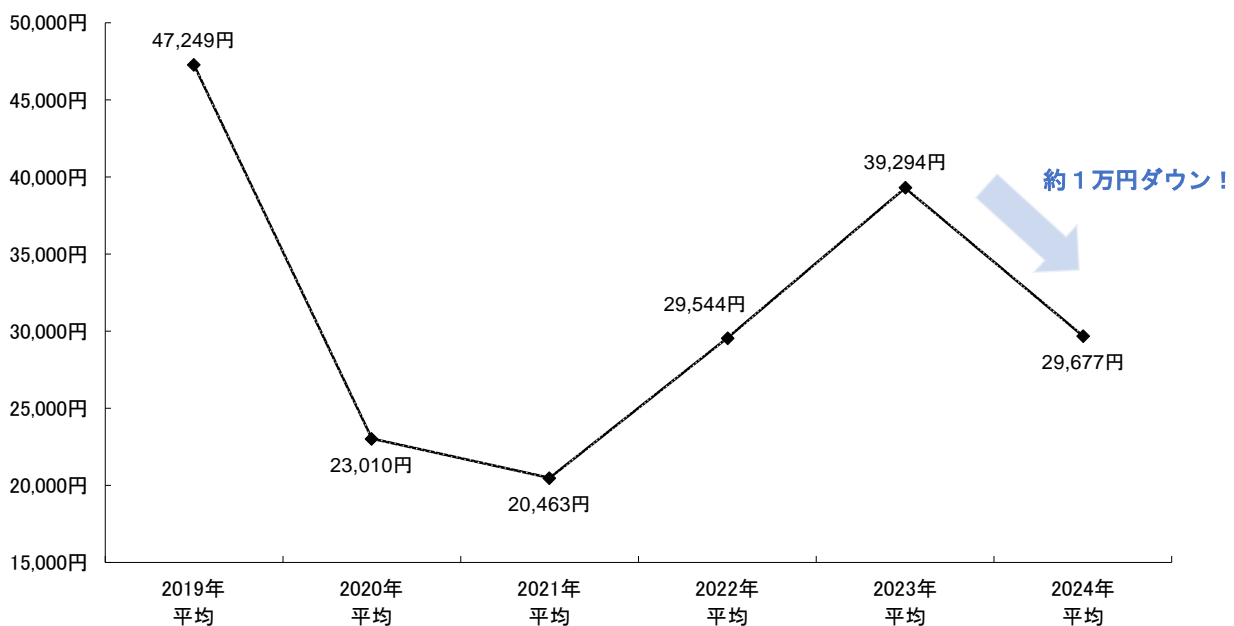
2. 今年のGW

(1) GWの予算

GW予算は昨年から約1万円ダウン！減らした理由は「物価高で予算を減らした」が最多

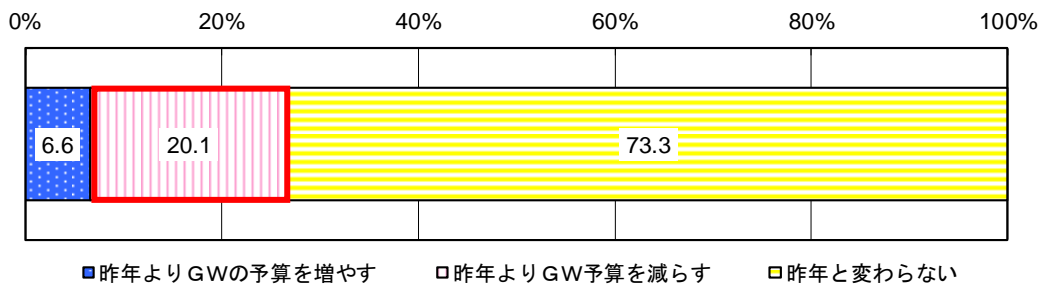
- 今年のGW予算について聞いたところ、29,677円と、昨年から約1万円（9,617円）減少しました。2年連続増加していましたが、今年は大きく減少に転じています。
- また、昨年のGWと比べてGW予算を「減らす」と回答した人（20.1%）は、「増やす」と回答した人（6.6%）の約3倍となりました。
- GW予算を「減らす」と回答した人に理由を聞くと、「物価高の影響で予算を減らした」が6割以上（65.8%）で、GW予算にも物価高が影響していることが伺えます。
- 物価高が生活を直撃し、GW予算を捻出する余裕がないことが、予算の減少につながっているのかもしれません。

Q. 今年のGWにいくら使う予定ですか



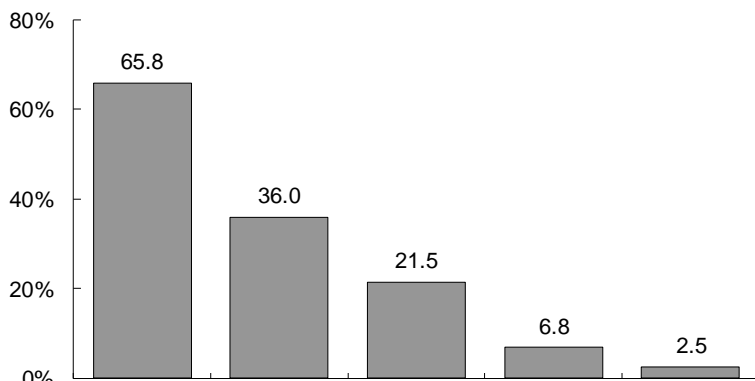
Q. 昨年の予算と比較したGW予算の増減は

「減らす」が「増やす」と回答した人の約3倍



Q. GW予算を減らす理由は何ですか（複数回答）

（「昨年よりGW予算を減らす」と回答した人のみ）



	物価高の影響で、予算を減らした (%)	収入が減ったため (%)	旅行や外出の予定がなくなったため (%)	連休がとれなかったため (%)	その他 (%)
全体	65.8	36.0	21.5	6.8	2.5
男性計	66.7	37.4	18.7	5.8	1.8
男性20代	37.9	37.9	27.6	10.3	-
男性30代	75.0	21.9	25.0	-	3.1
男性40代	76.7	36.7	13.3	10.0	3.3
男性50代	82.1	32.1	14.3	3.6	-
男性60代	63.6	72.7	18.2	-	-
男性70代	63.3	33.3	13.3	10.0	3.3
女性計	64.9	34.4	24.7	7.8	3.2
女性20代	54.8	35.7	35.7	14.3	-
女性30代	62.5	50.0	16.7	4.2	4.2
女性40代	76.9	30.8	19.2	7.7	7.7
女性50代	68.4	26.3	15.8	10.5	5.3
女性60代	57.9	42.1	15.8	5.3	5.3
女性70代	75.0	20.8	33.3	-	-

(2) GWの過ごし方

今年のGWは「自宅で過ごす」人が約半数！過ごし方にも物価高の影響が？

○今年のGWの過ごし方について聞いたところ、「自宅で過ごす」（今年：46.8%、昨年：41.6%）が昨年と比較して5.2ptも増加しました。また、「国内旅行」（今年：12.1%、昨年：13.7%）は1.6pt減少、「海外旅行」（今年：0.7%、昨年：1.2%）も0.5pt減少となるなど、物価高に加え、円安もGWの過ごし方に影響を与えているのかもしれない。

○そのようななかでも「国内旅行」など、“出かける予定がある”と回答した人に、物価高がGWに与える影響を聞くと、「目的地を近場に変更する」（26.2%）や「宿泊先のグレードを下げる」（16.5%）、「移動手段をより安価なものに変更する」（13.1%）など、工夫しながらGWを楽しもうとしている人もいます。

○一方、20～50代の「世帯収入が増えた」と回答した人のGWの過ごし方を見ると、「国内旅行」（20.1%）は全体と比較して8.0ptも高く、「自宅で過ごす」（29.4%）は17.4pt少ないという結果になりました。

○昨今、賃上げ機運が高まっていますが、「世帯収入が増えた」といち早く実感している人と、そうでない人ではGWの過ごし方にも大きな違いがあるようです。

Q. 今年のGWはどのように過ごしますか（20～70代）

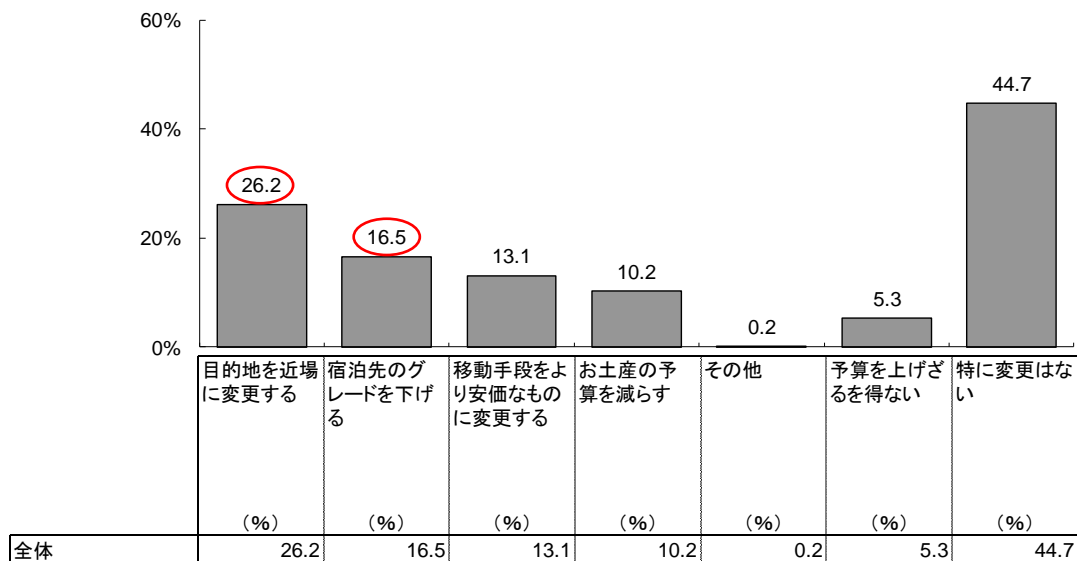
	自宅で過ごす	国内旅行	帰省	遊園地・テーマパーク	アウトドア（キャンプ等）	スポーツ観戦	海外旅行	ボランティア	その他	未定
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
2024年	46.8	12.1	6.5	2.2	1.9	1.6	0.7	0.5	2.7	25.1
2023年	41.6	13.7	7.9	2.4	3.0	1.2	1.2	0.2	2.5	26.2

Q. 今年のGWはどのように過ごしますか

（20～50代の「世帯収入が増えた」と回答した人）

自宅で過ごす	国内旅行	帰省	遊園地・テーマパーク	アウトドア（キャンプ等）	スポーツ観戦	海外旅行	ボランティア	その他	未定
(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
29.4	20.1	15.7	4.4	2.4	2.0	1.2	1.2	3.2	20.5

Q. 物価高は今年のGWにどのような影響を与えますか（複数回答）
 （今年のGW出かける予定がある人のみ回答）



～フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一はこう見る！～

■明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一



GWの過ごし方で、「自宅で過ごす」とした人が昨年の41.6%から46.8%へ増加しました。昨年のGWのテーマは、「脱巣ごもり需要」でしたが、その流れが止まってしまったようです。円安の進行で、多くの人にとって海外旅行はもはや高嶺の花になってしまいました。国内旅行なら安いというわけではなく、インバウンド需要の急増を受け、大都市や観光地ではホテルや外食の値上がりが続いています。豊洲では1万円台の海鮮丼が登場し、「インバウン丼」と呼ばれているというニュースは象徴的でした。アンケートでも、「目的地を近場に変更する」、「宿泊先のグレードを下げる」という意見が多く、「安・近・短」の合言葉が戻ってきた印象を受けます。

ただ、先行きの見通しが暗いわけではありません。今年の春闘における定期昇給込みの平均賃上げ率は、5%を超える着地が確実です。アンケートでも、所得が増えた世帯の外出意欲の高さが示されており、夏場以降は外出需要を含めた個人消費全般が伸びてくる展開が期待できると思います。

3. 貯蓄とおこづかい

(1) 貯蓄について

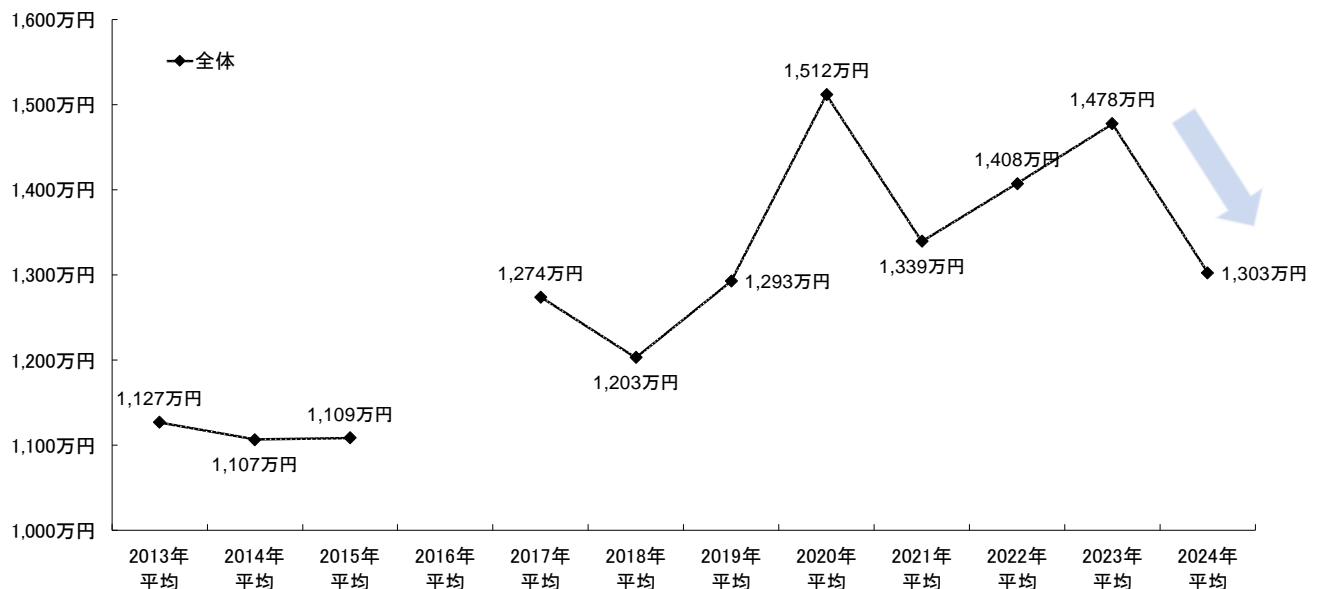
貯蓄額は3年ぶりの減少。昨年から175万円減！

○世帯での貯蓄額について聞いたところ、貯蓄額の平均は1,303万円となり、昨年と比較して175万円もの減少となりました。2022年以降、2年連続上昇していましたが、大きく減少に転じました。収入が物価高に追いつかず、貯蓄を切り崩している人が多いのかもしれませんが。

○貯蓄目的について聞いたところ、トップは「老後のため」(63.5%)、次いで「いざという時のため」(54.4%)と、先行きが不透明なことに不安を感じている様子が見えがえる結果となりました。

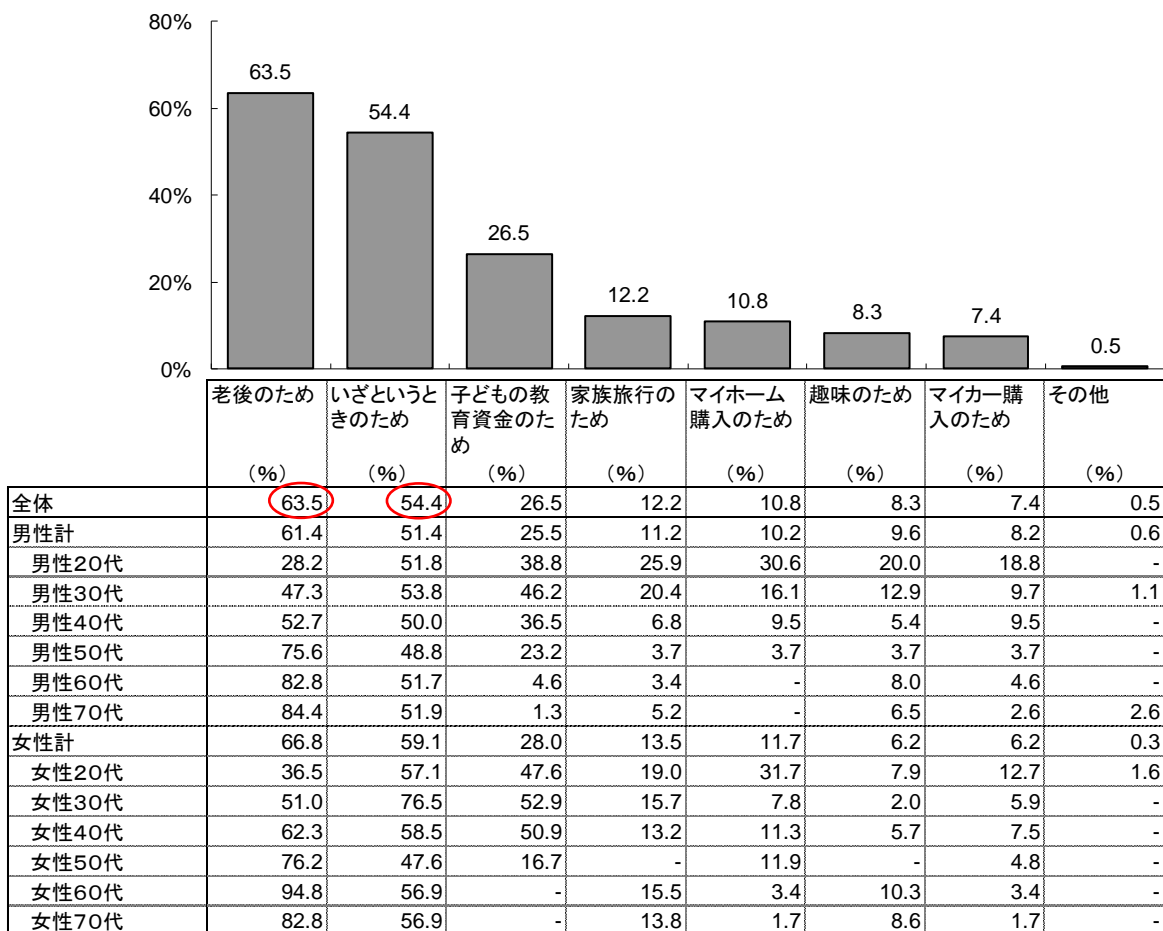
○世帯ごとの貯蓄割合を平均すると、「銀行預金」が71.6%で圧倒的に多い結果となりました。「投資」は21.6%でしたが、昨年より2.4ptアップしました(昨年:19.2%)。「投資」は少しずつ増えていますが、“貯蓄から投資へ”の定着にはまだまだ時間がかかりそうです。

Q. 世帯での貯蓄額を教えてください

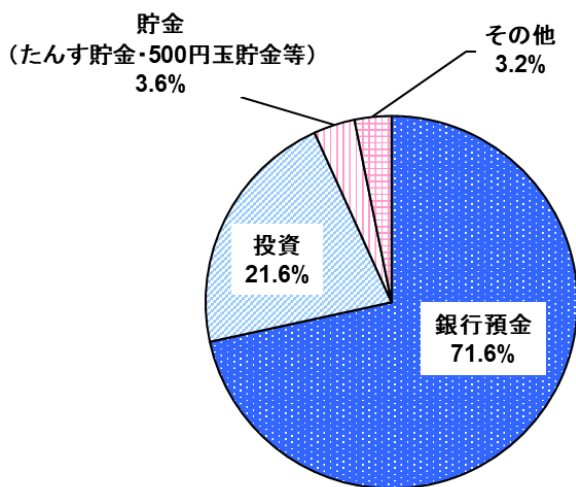


※2015年以前は「いい夫婦の日」に関するアンケート調査、2016年は調査なし

Q. 貯蓄目的を教えてください（複数回答）



Q. 貯蓄の割合を教えてください（世帯ごとの貯蓄割合を平均して算出）



	銀行預金 (%)	投資 (%)	貯金 (%)	その他 (%)
2024年	71.6	21.6	3.6	3.2
2023年 ※参考	74.3	19.2	4.1	2.4

(2) おこづかいについて

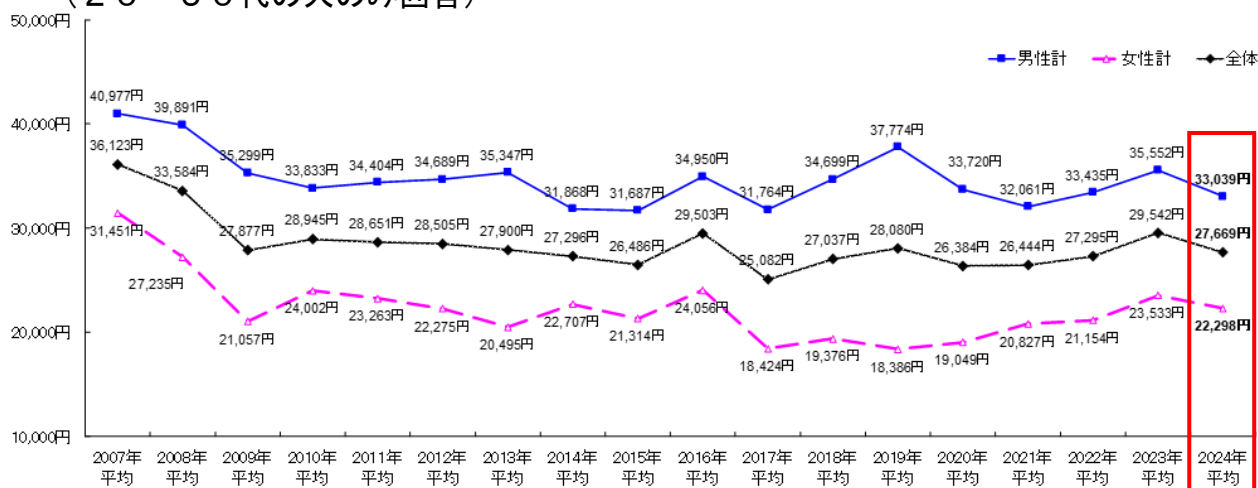
夫のおこづかいも3年ぶりの減少！昨年から2,513円減！

○20～50代の人に夫婦のおこづかいの金額（ひと月あたりの平均額）について聞いたところ、夫・妻ともに昨年よりも減少しました。妻のおこづかいは4年連続増加していましたが、5年ぶりの減少に転じました。

○夫のおこづかいは、昨年から2,513円減少（▲7.1%）の33,039円となり、3年ぶりの減少となりました。2022年以降、物価高のために費用が増加することに応じてか、おこづかいも増加傾向が続いていましたが、今年は物価高の影響が一段と強まり、減少に転じたのかもしれませんが。

Q. おこづかいの金額について教えてください

(20～50代の人のみ回答)



～エコノミスト 木村 彩月はこう見る！～

■明治安田総合研究所 経済調査部 エコノミスト 木村 彩月



夫のおこづかいは3年ぶりに減少するという少し残念な結果となりました。コロナや物価高の影響がない2019年との比較では約13%の大幅ダウンです。今年は妻のおこづかいも5年ぶりに減少していることから、長引く物価高で生活必需品への支出額が増えざるを得ないなか、夫婦で協力して趣味や余暇にかかる費用を節約している様子がうかがえます。

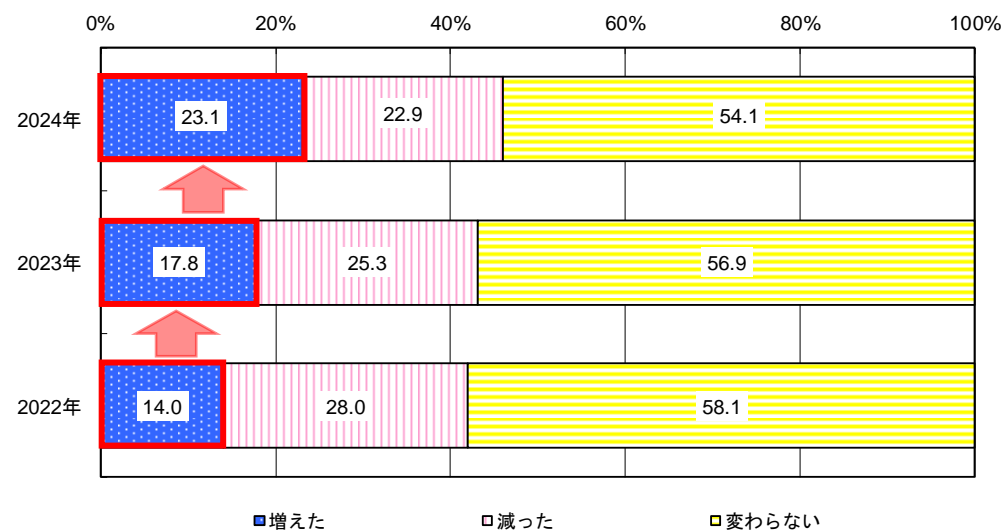
世帯の貯蓄割合では、投資の割合が昨年よりアップしました。今年は、新NISAのスタートが大きな話題となりました。非課税枠の拡大や非課税期間の無期限化など、従来制度から大幅に改良されたことから、この機に投資を始めた人が増えたとみられます。日経平均株価は足元ではやや軟調な推移となっていますが、昨年末から4ヵ月で約11%上昇しています（4月19日時点）。投資による運用益が家計の懐を温め、おこづかいアップや貯蓄額増加につながってほしいところです。

4. 世帯の収入

世帯収入が増えたと回答した人は、2年連続上昇！

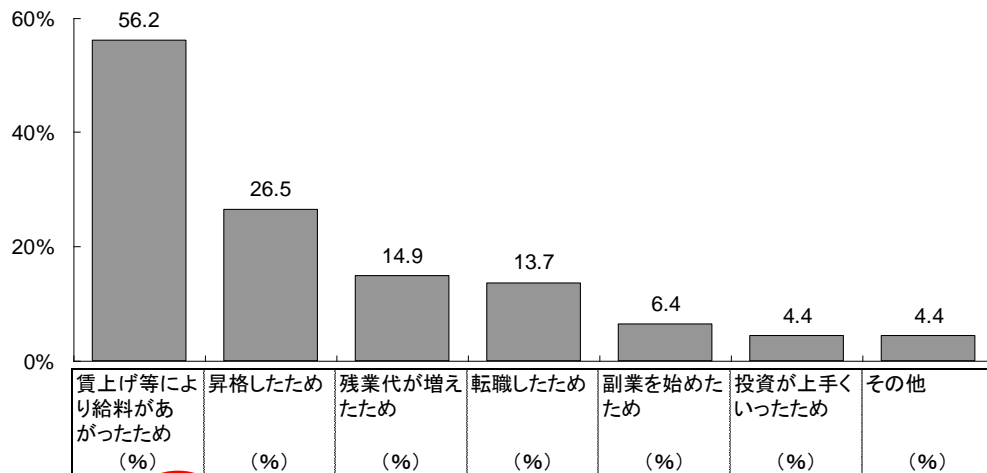
- 20～50代の人に昨年同時期と比較した世帯収入の増減を聞いたところ、23.1%の世帯が「増えた」と回答し、昨年（17.8%）から5.3ptアップで、2年連続で上昇しました。
- さらに、世帯収入が増えた理由を聞いたところ、トップは昨年に引き続き「賃上げ等により給料が上がったため」（昨年：42.3%→今年：56.2%）と13.9ptアップしました。賃上げを実感している人の割合は大幅に上昇しています。
- また、同回答を夫婦の働き方別（両方フルタイム：妻がパート）で比較すると、両方フルタイムの世帯では61.5%が賃上げを実感しているのに対し、妻がパートの世帯は48.6%と、12.9ptの差があります。
- 2年連続で世帯収入が増え、増えた人の半数以上が賃上げを実感しています。今後も引き続きの賃上げに加え、パートタイムへの賃上げの広がりも必要かもしれません。

Q. 昨年同時期と比較して、収入に増減はありますか（20～50代のみ回答）



	増えた (%)	減った (%)	変わらない (%)
全体	23.1	22.9	54.1
男性計	29.1	21.1	49.8
男性20代	39.3	24.4	36.3
男性30代	37.0	14.8	48.1
男性40代	23.0	17.0	60.0
男性50代	17.0	28.1	54.8
女性計	17.0	24.6	58.3
女性20代	23.7	25.9	50.4
女性30代	15.6	23.0	61.5
女性40代	17.0	21.5	61.5
女性50代	11.9	28.1	60.0

Q. 昨年同時期と比較して、世帯年収が「増えた」と回答した理由を教えてください
 (「昨年同時期より支出が増えた」人かつ20～50代のみ回答)



	賃上げ等により給料があがったため (%)	昇格したため (%)	残業代が増えたため (%)	転職したため (%)	副業を始めたため (%)	投資が上手くいったため (%)	その他 (%)
2024年	56.2	26.5	14.9	13.7	6.4	4.4	4.4
男性計	59.9	24.2	14.6	10.8	7.6	5.7	3.8
男性20代	60.4	24.5	20.8	7.5	7.5	1.9	3.8
男性30代	68.0	30.0	10.0	12.0	8.0	10.0	2.0
男性40代	51.6	25.8	16.1	9.7	6.5	3.2	3.2
男性50代	52.2	8.7	8.7	17.4	8.7	8.7	8.7
女性計	50.0	30.4	15.2	18.5	4.3	2.2	5.4
女性20代	37.5	34.4	6.3	25.0	-	-	3.1
女性30代	42.9	38.1	4.8	28.6	-	-	14.3
女性40代	65.2	26.1	26.1	13.0	13.0	4.3	4.3
女性50代	62.5	18.8	31.3	-	6.3	6.3	-
夫婦共働き(両方フルタイム)	61.5	24.8	12.8	14.7	5.5	4.6	4.6
夫婦共働き(妻がパート)	48.6	21.4	18.6	18.6	8.6	7.1	8.6
2023年	42.3	37.6	18.3	14.1	7.0	5.6	6.6

～エコノミスト 木村 彩月はこう見る！～

■明治安田総合研究所 経済調査部 エコノミスト 木村 彩月



暮らし向きの改善には、賃上げ率が物価上昇率を上回ることが重要となります。今年は、政府による賃上げ促進税制強化なども追い風に、高い賃上げの実現が確実視されています。4月18日に公表された春闘の第4回答集計結果は賃上げ率が5.20%と、昨年同時期(3.69%)の約1.4倍の伸びとなりました。春闘の結果が給与へ反映されるのはおおむね6～8月頃とされています。今後の物価動向にも左右されますが、物価上昇率に負けない給与アップがようやく見えてきています。

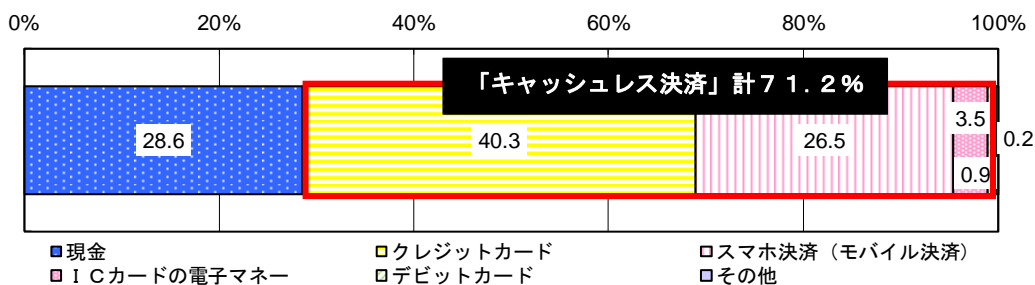
昨年より世帯年収が増えたとの回答は、男女ともに20代がトップでした。経団連の「2023年人事・労務に関するトップ・マネジメント調査結果」によれば、ベースアップの具体的な配分方法について、一律に配分するとした企業が半数以上であったものの、若年層へ重点配分するとした企業の割合も30.2%と、約3割に上りました(なお、中堅層は7.3%、ベテラン層は1.1%)。企業は、人材獲得競争が特に激しくなっている若年層の賃上げを積極的に進めています。こうした動きが、今回のアンケートにも反映されているようです。

5. キャッシュレス決済

現金派は3割以下！キャッシュレスが進むも、「スマホ決済」は苦手な世代も？

- 最も多く利用する決済手段について聞いたところ、「クレジットカード」（40.3%）で最も多く、次いで「現金」（28.6%）、「スマホ決済」（26.5%）となりました。キャッシュレス決済の合計は約7割（71.2%）で、多くの人が決済手段をキャッシュレスにしていることがわかりました。
- キャッシュレス決済は、小銭を出し入れする必要が無いなどの利便性や、ポイントが付くお得感が魅力ですが、物価高の影響もあってか、少しでも得をしたいという気持ちがキャッシュレス利用を後押ししているのでしょうか。
- 最も多く利用する決済手段を年代別に見てみると、「スマホ決済」は若い世代ほど人気があり、20代は33.7%ですが、60～70代は17.8%（60代：20.0%、70代：15.6%）と、15.9p tの差がありました。
- 一方で、「クレジットカード」（20代：37.4%⇔60代：47.8%、70代：42.2%）と「ICカードなどの電子マネー」（20代：1.5%⇔60代：5.6%、70代：4.8%）は若い世代よりも、60～70代の利用が多くなっています。
- 60～70代にとって、“スマホ”を利用する決済手段よりも、「クレジットカード」「ICカード」などの“カード”を利用する決済手段の方が安心、という気持ちがあるのでしょうか。“スマホ”だけで買い物をすることへの抵抗がまだあるのかもしれませんが。

Q. 最も多く利用する決済手段について教えてください



	現金 (%)	クレジットカード (%)	スマホ決済 (モバイル決済) (%)	ICカードの電子マネー (%)	デビットカード (%)	その他 (%)
全体	28.6	40.3	26.5	3.5	0.9	0.2
20代	24.4	37.4	33.7	1.5	3.0	-
30代	31.9	34.4	31.9	1.9	-	-
40代	27.8	37.8	30.0	3.7	0.7	-
50代	25.2	42.2	27.8	3.3	0.7	0.7
60代	26.3	47.8	20.0	5.6	-	0.4
70代	36.3	42.2	15.6	4.8	0.7	0.4